

天栄中だより

鈴鹿市立天栄中学校

510-0258 鈴鹿市秋永町 1839 番地

Tel 059-386-0444 Fax 059-386-0445

東日本大震災から10年経ちました

2011年3月11日14時46分、宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生しました。これにより東北地方を中心に北関東にも被害が及び、地震による揺れの被害のみならず、大津波、火災などで2万2000人余の死者・行方不明者が発生しました。

当時、私は神戸中学校に勤めていました。ちょうど掃除の時間だったと思います。エレベーターに乗っているような不思議な感覚でこの揺れを感じたのを覚えています。

さて、卒業式で3年生が歌った式歌「群青」は、東日本大震災で被災した福島県の子どもたちの思いが込められた歌です。

震災によって離ればれになってしまった福島県南相馬市立小高（おだか）中学校の生徒がどこにいるのか、大きな日本地図に生徒の顔写真を貼り付けながら、子どもたちが「遠いね」「でも、この地図の上の空はつながっているね」など話しながら詩づくりが始まったそうです。そして、子どもたちの思いを綴った日記や作文、他愛もないおしゃべりを書き留めていき、小高中学校の音楽科の小田美樹先生がまとめて、曲をつけて出来上がったのが「群青」という作品です。この歌が生まれたそんな背景を知り、聞くと胸が締め付けられます。

生きたくても生きることができなかつた人たち。愛する故郷を離れ、友達と別れることを余儀なくされた人たち。そして、希望をもって歩み続ける人たち。今回の防災学習では自分自身が今後どのように生きるかを考える貴重な学びにもなったのではないのでしょうか。

「群青」

平成24年度南相馬市立小高中学校卒業生

ああ あの町で生まれて 君と出会い
 たくさんの思い抱いて 一緒にときを過ごしたね
 今 旅立つ日 見える景色は違って
 遠い場所で 君も同じ空 きっと見上げてるはず

「またね」と手を振るけど 明日も会えるのかな
 遠ざかる君の笑顔 今でも忘れない

あの日見た夕陽 あの日見た花火
 いつでも君がいたね
 当たり前が幸せと知った
 自転車をこいで 君と行った海
 鮮やかな記憶が 目を閉じれば 群青に染まる

あれから2年の日が 僕らの中を過ぎて
 3月の風に吹かれ 君を今でも思う

響けこの歌声 響け遠くまでも あの空の彼方へも
 大切なすべてに届け
 涙の後にも 見上げた夜空に 希望が光ってるよ
 僕らを待つ 群青の町で

きっとまた会おう あの町で会おう
 僕らの約束は 消えはしない 群青の絆

また会おう 群青の町で…

一次避難



二次避難



【防災学習の感想】※3月11日実施

動画を見て、女川の人達が協力し合っていた姿がとても心に残りました。「自分の身は自分で守る」まさにこのことだと思いました。女川の人達が地震や津波でどれほど悲しんだか、そしてどれほど尊い命が失われたのかと思うほど心が痛むけど、地元復興に向けて少しでも僕らも協力していきたいと思いました。また、今後必ずやってくるとされている南海トラフ地震でも、大きな揺れや津波が来るので、今一度、家族内での避難場所の確認や地震時に持ち出す防災グッズなどの避難用品を準備しておきたい。

動画の中で俳句があって、その俳句に「ただいまと聞きたい声が聞こえない」という俳句がとても心に残りました。なぜかという、もし大震災がなければ、いつも通り家族の誰かが帰ってきて「ただいま」と聞こえてくるはずなのに、地震や津波のせいでその誰かがなくなってしまったということが分かり、この俳句を詠んだ人はとてもつらい思いをしたことが伝わってくるからです。自分も何か家に帰ったら、地震について家族と話してみようと思います。

地震や津波で、大切な人、大切な場所をたくさん失ったと思うのに、そうしたことを鈴鹿市との交流を通して伝えようと考えたり、石碑を建てたり、自分たちが今できることは何かを考え行動できることがすごいと思いました。ビデオを見て、女川の方々の優しさ、強さがよく伝わりました。それをふまえて、今私達ができることとは、南海トラフに備えて、女川の方々の教訓を大切にすることでもあるし、まだ完全に復興できていない地域の人々や女川の方々と助け合うことではないかと考えました。

今までは地震や津波に対して、特に考えたことはなかったけど、実際に被災した人たちの声やこれから起こると予測されている南海トラフのことなどを知って、とても身近なことに感じました。家に帰ったら防災グッズがあるのか探してみたいと思います。

昨年、女川中学校に向けて俳句を書きましたが、女川の人達が俳句でつながることをあんなにも喜んでいたらなんて知りませんでした。前に鈴鹿市役所に行ったときに石碑みたいなのがあったので、次に市役所に行く機会があれば見たいと思います。

動画を見て思ったことは、助け合うことはとても大切だということです。女川と鈴鹿が俳句交流をしているように、精神的に助けるというのはいつまでも続けるべきだと思います。人は一人では生きていけないと私は考えます。なので、これから困っている人がいれば助けようと思いました。

私は、映像でしか現場を見ていないので女川町の人達がどんな気持ちで震災を乗り越えていたのかわかりませんでした。ですが、少なからずつらい、悲しいという気持ちがありながらも前に進もうという思いがあって、今に至ると思います。そんな方々の気持ちに寄り添って行動したり、発言することが私にできることかなと思います。今日、避難訓練をしました。これが無駄にならないように家の防災グッズの確認や家族とどこで集合したりするかも話し合っ自分の命だけでなく、他の人の命も守れる行動を考えていきたいです。

私は、地震が起きているときの動画を見て、長い間揺れていたし、家の中のあらゆるものが倒れていてすごく怖いと思った。動画のような地震が起きた時に、机の下にしっかり隠れたり、東日本大震災のような大規模な津波に備えて地震がおさまったらすぐに高いところに避難して、自分の命は自分で守ろうと思った。自分が死ぬまでに必ず起きると言われている南海トラフ地震に備えて、水、非常食(かんぱんなど)、ライトなどの防災グッズを枕元に置いて、毎日寝なければいけないと思う。家族ともどこに避難するのかなどをしっかりと話し合っ避難所での安否確認ができるようにしておきたいと思った。避難する時には、自分一人で逃げるのも良いが、できるなら足の不自由な障がいのある方や高齢者の方々も安全に避難できるよう一緒に逃げたりしたいと思った。自分の命も大切だが、他者の命も自分が守れることが一番良いと思う。